

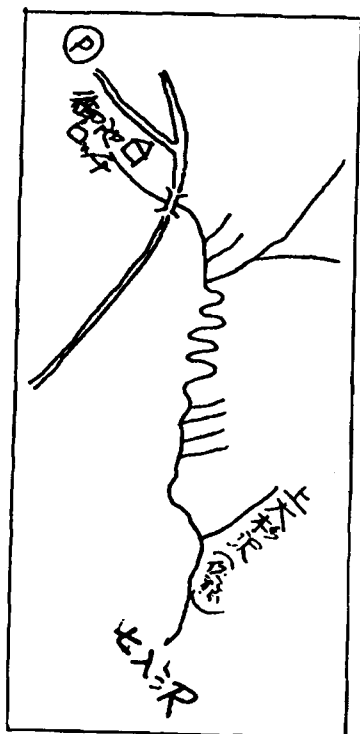
ような状態で続く。今年の紅葉はまだ早いようで、ウルシなどが色づく程度である。

9:00, 二俣に出る。水量比は3:1で本流の方が多かったが、沢は単調であり、もう滝も出ないと判断、右の支流に入る。このあたりから広葉樹に混じって針葉樹が見られる。そしてミズバショウの茂る谷地が出てくる。ヤブがかぶさってきたので、遡行終了とし、左岸の車道をめざす。10分で車道に出た。

車道のわきは、電線を埋没したところが歩道となっている。車道より一段低く、車の音さえなければ快適な散歩道である。ここを下って、飛ばしてしまったモーカケ滝の下流を下降することとした。

滝見場から直接沢に下るのは無理なので、少し尾根を下ってから沢に降りる。急斜面を木の枝につかまりながら沢へ。モーカケ滝の下は大岩がゴロゴロしていて、迫力充分。末広がりが見事な滝である。高さは約30m。しかし滝から下は何もない河原。橋の跡で沢を離れ、七入へ。 (記・)

[タイム] 七入(6:30)→滝見場(7:00)→沢(7:20)→二俣(9:00)→道路(9:15)→滝見場(10:35, 10:45)→モーカケ滝(11:00, 11:15)→七入(12:05)



御池沢(仮称)

1989年7月30日

L

天気曇。七入沢源頭の無名沢2本を遡行する予定だったが、現在地を誤認してしまい、結局御池から流れ下る1本の沢(御池沢と仮称する)だけの調査に終わった。

大杉沢に入る予定の西さんたちのパーティを御池の手前で降ろし、車を御池ロッジの駐車場に置く。今日の目的の沢は、御池ロッジの後ろから流れ出している七入沢の源頭部である。沢は道路の下をくぐり、東へと流れ、高度を下げてゆく。すぐに平坦地となり、極端な蛇行を始める。方向感覚を失ってしまいそうな流れである。だいぶ歩いているようだが、距離はほとんど稼いでいない。途中で大杉沢に入っ

たはずの西さんたちの足跡を確認。西さんたちも現在地確認のため、あちこちと歩き回ったようだ。

7:55顕著な二俣に出る。これが遡行予定の沢だと思ったが、平坦地のため高度計は役に立たず、蛇行した沢に方向感覚も狂い、現在地の確認ができない。無線交信で西さんたちがこの沢に入ったと確認できたので、私達はここで下降終了とした。

(記・)

[タイム] 御池(7:05)→沢(7:10, 7:15)→二俣・下降終了(7:55)

上大杉沢(仮称)

1989年7月30日

L

和泉さんの車で送ってもらい、やぶをこいで沢に入る。実は大杉沢に入るつもりであったのだが、車道上に目印がなく、現在地確認を誤ってしまい、予定の大杉沢より1本上流の上大杉沢(仮称)に入り込んでしまった。

7:10遡行開始。蛇行したり、時には流れが消えてしまったりと、湿原の中を複雑に流れている。途中ノタ場があり、獣たちの足跡が無数についていた。湿原地帯を抜けると、樹林帯を蛇行しながら流れるようになる。それでもゆるやかな流れでしかない。

出合から1時間程遡行したあたりからようやく傾斜がついてきた。でも滝はかからない。どんどんつめあげていったら、1mの小滝をみただけで、源頭の湿原となってしまった。15分のやぶこぎで、大杉岳と御池を結ぶ登山道に出る。

(記・)

[タイム] 出合(7:10)→遡行終了(9:15)→大杉岳(9:40, 10:00)→御池(10:40)



七入沢

1989年7月30日

L

七入のテントサイトから車に便乗し、途中で降ろしてもらって沢に入る。すぐ